

防災世界子ども会議

Natural Disaster Youth Summit NDYS

グローバル・デジタル時代の国際協働学習

- 地球市民としての協働学習 -



2024.6.1

防災世界子ども会議実行委員会

グローバル・デジタル時代の国際協働学習

～地球市民としての協働学習～

廣田 元子 JEARN 中部センター代表
納谷 淑恵 防災世界子ども会議代表
岡本 和子 防災世界子ども会議創設者

防災世界子ども会議（NDYS）は、アイアーン大正琴プロジェクトや外部団体である琴リンピック実行委員会などと協働することにより、より広範な人々を対象とした地球市民としての協働学習を実践している。本稿では、NDYS の国際協働学習プログラムの一つとして、プロジェクトを実践している大正琴プロジェクトに焦点を当て、NDYS と大正琴プロジェクトのコラボレーションにより、地球市民としての協働学習をいかに実現しているかについて述べる。

キーワード 大正琴プロジェクト 防災世界子ども会議 琴リンピック 国際協働学習

1. はじめに

アイアーン大正琴プロジェクトは2009年に名古屋の小学生を対象にスタートしたプロジェクトである。当時「防災世界子ども会議」の事前学習に参加していた小学生たちが2005年（兵庫・淡路島）2006年（台湾・高雄）と国際会議に参加し、2007年には自分たちの地元での（愛知）開催にも参加した。

子どもたちは、事前学習やネットによる国際交流を進める中で、交流国との最近流行の曲や童謡などの音楽交換交流がきっかけとなり、音楽教師だったプロジェクトリーダーが被災後の「心のケア」として名古屋で発明された「大正琴」を国際交流楽器として「世界に広げよう」と活動を開始した。

準備を経てプロジェクトとして海外活動を開始したのは2010年「iEARN カナダ会議」からである。アイアーン世界会議に出席してワークショップと演奏発表、世界の学校や、先生たちに大正琴の贈呈をおこなった。インターネットで演奏方法や曲の紹介、アイアーンテレビ会議システムを使っての大正琴練習会。アイアーンだけでなく、外部団体のイベントに参加したり、交流校訪問をしてワークショップや演奏発表をしたりして世界の子どもたちや先生たちと交流を深めた。

2. 目的と方法

2-1 目的

アイアーン大正琴プロジェクトの目的は、被災後の「心のケア」として、名古屋で発明された「大正琴」を国際交流楽器として「世界に広げよう」というものである。



図1 防災世界子ども会議に参加の
JEARN 中部センターはづっこカウボーイ

防災世界子ども会議は、持続可能で災害にレジリエント（強靱）な国際社会に貢献するために、3つの主要なプログラムを通じて国際協働学習をすすめている。

① グローバル災害安全マップ作り、②キッズ防災バッグ作り、③音楽による心のケアの3つのプログラムである。誰一人取り残さない防災への取り組みとして、防災世界子ども会議と大正琴プロジェクトの2つのプロジェクトが協力しているのが、「音楽による心のケア」で、SDGs 目標3「すべての人に健康と福祉を」に沿ったものである。



地域に貢献する取り組み
はづっこカウボーイは地域の行事や、高齢者施

設やカフェにも積極的に参加している。



図2 図3 地域の秋祭りに参加



図4 高齢者カフェ訪問

誰一人取り残さない防災への取り組み

はづっ子カウボーイのメンバーたちは2024年1月に2回の「第1回よっかいちジュニアメディカルラリー」事前学習に参加し、救命処置や応急手当を専門家から学んだ。



図5 ジュニアメディカルラリーに参加

3月10日（日）は災害時におけるコミュニケーション能力や協調性、リーダーシップスキルや総合援助の大切さを競うラリーで、「命の尊さを学ぶ」機会を得ることができた。



図6 ジュニアメディカルラリーに参加
<https://yokkaichijuniormed.wizsite.com/my-site>

2-2 方法

1) 実施計画案

2014年プロジェクトを手伝いたいと「琴リンピック」事務局から申し出があり、海外への大正琴寄贈とプロジェクト演奏発表の支援要請を受けて2年に一度、新潟市で開催される「琴リンピック」の海外交流支援をおこなっている。

「世界大正琴交流会 琴リンピック 2024 in 新潟」は8月18日（日）に開催予定である。8月15日（木）から海外受け入れ「世界大正琴交流会」、17日（土）リハーサル、カルチャーナイト、18日（日）「防災世界子ども会議 2024 in 新潟」NDYS 宣言文発表、会場展示発表、「世界大正琴交流大会 琴リンピック 2024 in 新潟」開催予定。

3. 活動内容・研究内容

3-1 具体的な実施内容

防災世界子ども会議は、毎年プロジェクトの成果発表会を行っている。近年は、Zoom による発表会と、実際に集まって発表をする形を隔年で行っている。プロジェクト参加グループは、発表会に向け、それぞれ練習をおこなう。

3-2 具体的な参加者内容

プロジェクト参加グループは、学校単位であったり、複数の学校が協力し合って参加したり、地域の子供たちが集まってグループを形成して、地域ぐるみで参加するなどさまざまであり、学校の枠を超えたプロジェクトの広がりを見せている。

3-3 具体的な実施内容

発表会はインターネット上の発表会と実際に

集まって行う発表会の2種類がある。

2023年を例にあげると、インターネットの発表会をメインに、三重県四日市市の会場に日本の子どもたちが集まり、ハイブリッド形式で成果発表会をおこなった。

参加国は、5カ国1地域から7グループであり、マレーシア、インド、インドネシア、ジョージア、台湾、日本であった。



図7 Zoomによる音楽発表マレーシアの様子



図8 マレーシアの発表を聴くはつぷろたち



図9 琴リムピック合宿 お国自慢料理披露
ジョージアの生徒とジョージア代表



図10 琴リムピックリハーサルの様子



図11 琴リムピック本番終了！

4. 成果と課題

○成果

アイアーン大正琴プロジェクトでは「大正琴の輪は 未来を拓く 防災の輪」をテーマに活動している。

2010年からカナダ、アメリカ、台湾、韓国、シリア、オマール、セルビア、オーストラリア、オランダ、タイ等に合計約50台を学校に贈呈した。

2014年から「琴リムピック」事務局の協力により、24の国と地域389台を学校や先生個人に贈呈した。その成果もあって、世界中に、大正琴の演奏発表ができる環境にある学校が増え、防災世界子ども会議の発表の後には必ず大正琴を含む音楽発表があり楽しく交流を深めている。また、2年ごとに行われる「琴リムピック」と協力することにより、プロジェクト参加生徒は、琴リムピックに参加する、世代を超えた大正琴愛好家のおよそ500名の方々に対して防災学習の成果、及び音楽発表を行うことができた。

防災世界子ども会議は、アイアーン大正琴プロジェクトや外部団体である琴リムピック実行委員会と協働することにより、学校という枠を越えたより広範な人々を対象とした地球市民としての国際協働学習を行うことが可能となったのである。

○課題

防災世界子ども会議は、来年でプロジェクト開始から20年を迎える。大正琴プロジェクトは、今年で15年である。今の体制でいつまで継続できるのかが今後の課題である。

参考

<https://ndys.jean.jp/>

<https://kotolympic.com/>